

大分の青少年



第42回 —今、中学生が訴えたいこと—

少年の主張

大分県大会

第42回を迎えた今大会には、県内24校から1,291作品の応募がありました。8月28日、津久見市民会館で開催された大分県大会では、第1次、第2次審査を経て選ばれた10人の中学生がそれぞれ日常や学校生活で体験したことや感じたことなど、様々なテーマで熱のこもった発表をしました。

少年の主張 大分県大会



大会発表者作品

最優秀賞

「変える、変えられる」
小代 あこ 竹田市立直入中学校 3年

優秀賞

「力を結集して」
小島 広大 竹田市立竹田南部中学校 3年
「誰かのためにそして私自身のために」
鳥越 百華 臼杵市立東中学校 3年

優良賞・大分県教育長賞

「世界中の人に伝えたい」
池部 瑠夏 九重町立このえ緑陽中学校 3年

優良賞

「僕の輝ける場所」
大塚 幹太 臼杵市立南中学校 3年
「今、伝えたいこと」
栂田 蘭乃 宇佐市立宇佐中学校 2年
「命を大切に作る社会を」
釘宮 優輝 臼杵市立野津中学校 1年
「胸を張れる人生」
園田 海斗 津久見市立第二中学校 3年
「人を思いやる心」
高志 宗一郎 佐伯市立佐伯南中学校 3年
「誰かの幸せの種を私はずくりたい」
吉松 碧唯 由布市立庄内中学校 3年

作品紹介

第42回「少年の主張大分県大会」最優秀賞

「変える、変えられる」

竹田市立直入中学校 3年

小代 あこ



私の学校には『挨拶運動』という伝統があります。週3回、生徒会役員が校門の前で登校してきた生徒、通りすぎる地域の人や車に挨拶をするというものです。2年生の1月、生徒会長になった私はその伝統をやめることにしました。

「おはようございます」と、校門前で言う挨拶に返事をしない人はいません。皆、はっきりと「おはよう」と返してくれます。でも、校舎内では私の「おはよう」に返ってくる言葉はありません。意味がない。そう思った私は、この挨拶運動を変えようと思えました。

執行委員会で提案し、皆で考えました。そして考えついたのは、生徒会役員が各教室に挨拶をしてみよう、すれ違う人と挨拶を交わすというスタイルでした。私はすごくいいものだと感じ、皆もきっと賛成してくれると思っていました。

ところが、皆は形を変えることに簡単に賛成はしてくれませんでした。

「校門前での挨拶運動は、直入中の伝統やけん。」

「普通にすればよくね。変える必要なんかあるん。」

現状を伝えても、なかなか納得してくれません。私はそれが悔しくて、悔しくてたまりませんでした。『なぜ今まで通りが正義みたいに言うんだらう。伝統を壊すことはいけないことなのだろうか。』そんなことを思いながら皆に訴え続け、ようやく新しい挨拶運動をスタートさせることに成功したのです。

新しい挨拶運動は、やってみると思っていた以上に好評で、校内での挨拶の声も増えたように感じました。あんなに反対していた人たちも、「いいね。頑張ってる。」

と応援してくれるようになったのです。私はこの経験から、『今まで通り』を変えることの難しさを知り、同時に、新しいことを始める面白さと楽しさ、そして

自信を得ることができました。

生徒会長としての私の次の仕事は、卒業式の準備でした。これまでお世話になった先輩方を心を込めて送りたい。その思いを形にしたのが、卒業式の会場に飾るステージ画です。先輩たちの思い出を聞いて下絵を描き、模造紙を何枚もつなぎ合わせ、プロジェクターで拡大して下絵を写し、色を塗るので。昼休みや放課後に毎日作業を続け、順調に仕上がっていきました。そして完成までもう一息というところで、私たちは絵を仕上げることができなくなりました。それどころか、学校に行くことすらできなくなったのです。卒業式の1週間前、突然の全国一斉の休校要請でした。

卒業式で読むはずだったスピーチ。何度も書き直したのに。未完成のステージ画。ピアノの鍵盤に、あんなにこだわって色を塗ったのに。先輩に直接お礼も言えないままお別れになるのか…。そんなむなしい気持ちのまま、一日一日が過ぎていきました。

そんな時、友だちからこんな連絡が入りました。「動画でメッセージを作って、先輩たちに送らないか。」と。そうか、卒業式に出られない、ステージ画も飾られないとあきらめるのではなく、新しいアイデアを出せばいいんだと気づかされました。それから急いで全校に連絡網を回し、それぞれメッセージを書いたものを手に持ち、写真を撮ってもらうように頼みました。卒業式で読むはずだった文も動画に入れ、歌うはずだった合唱曲をBGMにしました。もちろん、私1人でできるはずもありません。親同士が連絡を取り合い、ラインで写真を集めてくれたり、パソコンが得意な姉が編集を手伝ってくれたり、こんな風にしたらと友だちが次々アイデアをくれたり、集まることはできなくても、いろいろな方法を使って連絡を取り合い、いろんな人を巻き込みながら、私たちはつながらることができたのです。

そして卒業式当日。動画を先輩たちの保護者のグループラインにあげ、私たちの思いを届けることができました。

2ヶ月後、学校が再開し、未完成のままのステージ画を片付けました。少し残念な気持ちはありましたが、むなしさは残っていません。今まで通りの、伝統として受け継いできた卒業式はできませんでした。でも、できないのなら一生懸命考えて、一から始めればよかった。そして、私たちはそれができた。そんな達成感とすがすがしさを、今、私は感じています。



スマホ・インターネットの安全・安心な利用について

昨今、スマートフォンやインターネットが急速に普及しています。

多くの児童・生徒が、インターネットやソーシャルネットワークサービス（SNS）を利用していますが、SNS等の不適切な利用により、トラブルや犯罪に巻き込まれたり、加害者となったりするケースが発生しています。

また、未就学児など低年齢層の子どもたちも、動画サイトを閲覧したり、オンラインゲームを行ったりするなど、インターネットの利用が年々低年齢化しています。

児童・生徒に情報モラルを身に付けさせることが一層重要となっていますが、保護者や大人も、子ども達が安全にインターネットを使えるよう、知識・理解を深める必要があります。

子どもが、スマートフォンや通信機能のあるゲーム機を使うようになったら気をつけなければならないこと等を大分県生活環境部私学振興・青少年課のHPに掲載しています。

詳しくは、下記URLまたはQRコードからご確認ください。



子ども達にスマートフォンを使わせるときは、フィルタリングを設定しましょう！

<http://www.pref.oita.jp/soshiki/13255/jouhoumorarukouza2020.html>



中学生・高校生の声！中学生・高校生ICTカンファレンスの開催！

中高生がネットやスマホ、ICTの安心、安全な利活用について自ら考え、議論する「中高生ICTカンファレンス2020 in 大分」が10月10日（土）に行われました。**オンライン開催**となった今年の会議には約40名の中高生が参加し、県内各学校から参加する中高生同士、そして本部とタブレットの画面越しに議論を交わしました。

「新しい生活様式とICT活用法」～行動制限の時代に生きる～をテーマに、熱心にグループ討議や発表が行われ、審査の結果、大分東明高等学校の池邊愛美さんが県代表に選ばれ、全国大会に出場することになりました。

グループ討議などで、ネット利用を巡る課題や今後のネットやICTの活用について以下のような発言がありました。

<参加した中高生の声>

1人1台タブレット端末の配布やオンライン授業環境を整備してほしい！

私達もネットの使い方を勉強しなければならないけれど、先生や大人もICTの活用に詳しくないといけない！

正確な情報を見つけ出すために、情報の選択スキルや情報モラルをもっと勉強したい！

スマホでのSNSの利用には慣れていますがICT全体は身近でない！

オンライン帰省するために、おじいちゃんやおばあちゃんにもICT活用を教えよう！

社会的自立に悩みを抱える子ども・若者の気持ちに寄り添い応援します！

大分県では、不登校やひきこもり、就労等の社会的自立に困難な悩みを抱える方々やそのご家族をサポートするため、相談窓口を設置しており、電話・メール・来所・訪問による相談が無料でできます。

誰もが抱えるさまざまな悩み事を、ひとりで、家族だけで抱え込まずに、まずはお気軽にご相談ください。

おおいた 子ども・若者総合相談センター

悩み相談の全般を受け付けます！

相談は **無料** です。

悩みごとがあれば、お気軽にご相談ください

まずは ☎ **097-534-4650** にお電話ください。

mail : info@oita-konet.net

相談内容 ▶ 不登校、ひきこもり、ニート等青少年の悩み相談全般

受付時間 ▶ 月曜日～土曜日 9:30～17:30

所在地 ▶ 大分市中央町1丁目2-3 KNTビル



市町村民会議の取組

由布市 (由布市青少年健全育成市民会議)

由布市青少年健全育成市民会議は、3つの支部(挾間・庄内・湯布院)で構成されています。日ごろは、それぞれの地域で特性に応じた活動を支部が主体となり展開し、その成果や活動状況を全体研修会で情報共有を図るなどの取組を行っています。

また、子ども達の地域とのつながりを深めながら青少年育成を推進するため、あいさつ運動に加え、青少年リーダー研修会などの育成支援や、地域の子どもに向けた交通安全教室、地域・学校等と連携した清掃活動など、地域と連携して様々な取組を進めているところです。

今年度は、コロナ禍の活動で例年通りとはいかない状況にありますが、青少年の育成支援や啓発活動は進めていかなければなりません。家庭・学校・地域の連携のもと、市民会議のメンバーが一丸となって青少年の育成に取り組んでいます。



青少年健全育成市民会議総会



全体研修会の様子

姫島村 (姫島村青少年健全育成村民会議)

姫島村青少年健全育成村民会議では、「島の自然や文化、人と人とのふれあいを通じて、心身のたくましさや社会性、豊かな人間性を培うことができるように」という理念のもと、学校・家庭・地域が協働し、参加体験型学習等を実施しています。

事業の一環で「三世代ふれあい交流会」と題して、小学1年生～3年生とその保護者、老人クラブの方を対象に、軽スポーツを通して交流を行う活動を毎年行っています。交流会前は、同じ地域に住んでいることも知らない児童と高齢者が、交流会終了後には、道で出会うと笑顔であいさつや会話をする間柄になり、自然と地域の中で、青少年の見守り活動が行えています。

今後も、地域の協力を得ながら青少年の健全育成活動に取り組み、次代を担う青少年の成長につなげます。



三世代ふれあい交流会



海岸清掃の様子

立ち直りを直接支える 保護司になリませんか？

保護司とは

- 1 保護司は、法務大臣から委嘱され、地域の安全・安心のために貢献する民間のボランティアとして活動しています。
- 2 保護観察
保護観察官と連携しながら、保護観察を受けている人(成人・少年)の担当保護司として、月に2～3回程度、本人との面接等を通じて、通常の社会生活が送れるよう見守り、助言等を行い、その結果を保護観察所に報告しています。
- 3 生活環境の調整
矯正施設(刑務所・少年院)に入っている人が帰る場所(地域社会)の様子を確認したり、家族や支援者等の相談に応じたりして、その結果を保護観察所に報告しています。
- 4 犯罪予防活動
地区の「保護司会」に所属し、保護司会が行う研修会や広報活動等の犯罪予防活動に参加しています。



協力・連携

【条件】①社会的信望、②熱意と時間的余裕、
③生活の安定、④健康、⑤前科前歴がない
【最初の委嘱時の年齢】66歳以下
【任期と定年】任期は2年、75歳まで再任可
【給与】なし(交通費等の実費弁償金が支給されます)



法務省では、保護司になって下さる方々を探しています。

興味がある方は、地域の保護司の方もしくは大分保護観察所へお問い合わせください。

【問い合わせ先】大分保護観察所企画調整課 TEL 097-532-2053 アカウント名: MOJ_HOGO

保護局ツイッター

検索

県民会議加盟団体の活動

日本文理大学

問い合わせ先 097-592-1600

日本文理大学は2007年に人間力育成センターを創設し、大分県全域を学びのフィールドとし、地域社会に主体的に参画ができる人材育成に努めております。活動の内容は青少年の体験活動のサポートや企画立案をはじめ、環境保護活動や、高齢者支援等多岐にわたります。本センターの活動は、学生単独での展開ではなく、地域住民や既に活動されている方々と共同で開催するため、「学生のみならず地域全体が学び合える機会になっている」という声も頂けるようになりました。

本年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり本格的な活動が出来ていませんが、この様な時期だからこそ青少年を育成する地域社会の教育力が必要とされていると痛感しています。

一刻も早く新型コロナウイルス感染症が収束し、加盟団体の皆様と本センターに集う学生有志との協働活動が出来ることを楽しみにしています。

今年の10月25日には、国立阿蘇青少年交流の家で行われる体験活動にボランティアスタッフとして参加します。



地元団体協働
佐賀関サマーキャンプ



県森連協働 木育教室

日本海洋少年団大分県連盟

問い合わせ先 097-521-6113

日本海洋少年団連盟は、海洋国日本の次代の担い手である全国の青少年少女たちに、「海に親しみ、海に学び、海にきたえること」をモットーとして、昭和26年に設立され、大分県連盟は最盛期（平成2年頃）には県下3つの団で200人程度の子もたちと指導者が所属していました。現在は、大分団・佐伯団の2つの団で約20名の子もたちと指導者によって運営され、心と体の育成の場を「海」に設けて活動しています。以前はそれぞれの団で独自の活動をしていましたが、現在は佐伯市において大分団・佐伯団が合同で活動しています。

活動内容は、洋上でのヨットやシーカヤックの乗船、ロープワークや手旗信号の習得、海上保安庁・自衛隊の艦船・施設の見学などです。全国大会と九州北部地区大会（福岡・長崎・佐賀・大分）が交互に毎年開催され、大分県内だけでなく県外でも活動し、様々な地域の海洋少年団の交流を深めることができます。令和3年度は香々地青少年の家を中心に九州北部地区大会を開催する予定です。



手旗信号訓練



シーカヤック訓練

大分掃除に学ぶ会

問い合わせ先 097-567-1772

大分掃除に学ぶ会は、NPO法人日本を美しくする会の活動に賛同し、青少年育成の取組として、先生と生徒、企業や地域の子もたちとトイレを徹底的に磨き上げ、掃除をすることを通して、参加者の心の修養を行っています。平成10年3月に大分市市民平和公園のトイレ清掃を第1回として活動を始め、現在198回にわたり活動を続けています。学校や公共施設のトイレを活動の場として美化活動と心の浄化を目的に、①謙虚な人を目指すこと②気づく人になれること③感動の心を育むこと④感謝の心が芽生えること⑤心を磨くこと を心がけ、清掃活動の実践から自身の心の持ち様を学ぶ取組を行っています。

現在も、地域の方々と毎月第2日曜日の朝6時から7時まで公園や街頭の清掃、毎月第3日曜日にトイレ清掃を行い、街やトイレを綺麗にするを通して環境美化についての啓発を図っています。掃除し終えた後、やり遂げた達成感から、困難なことに挑戦する勇気が身につく、感動を味わえることが活動の魅力でもあります。



トイレ清掃



街頭清掃